



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 35

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 35. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 35: 13-18

ISSUE DATE:

1955-08-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186840>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 35

1955. 7月(8月5日)

録 事

本年度委員会の決議により発足した本會の研究奨学金の公募に応じて4名(畑 幸彦・三浦泰藏・奥野良之助・原田英司)の候補者が挙げられたが、選考の結果下記の1名が最初の受領者として決定を見た。

氏 名： 原田 英 司 (京大理学部動物学科 昭和30年卒)

研究課題： 集魚灯に集まるイセエビ幼生の研究。

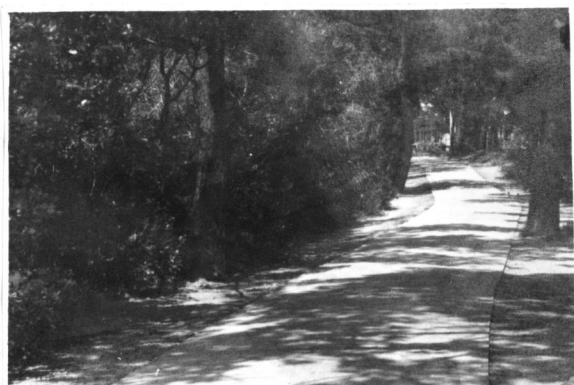
よつて同氏は下準備のため、7月16日 実験所に来所、一週間滞在ののち帰学した。

先月末施行中の正門通りの砂利盛りは上旬に完了し、水族館に到る道はふたつとも見違える程美しくなつた。なら昭和29年5月16日付を以て春所山植物園との間に締結した覚書に基づく、水族館下の海岸道は来年の4月までに復旧される予定であつたが、工事を請負う梅倉組が臨海道路(縣道)の改修完了に引きついで施行したいとの意向により、急に予定よりも早くなつて、今月中旬より施工に着手、下旬中に完了を見た。

この道は戦前は水族館より植物園に通ずる道として南側には土産物店が軒を並べていたが、南海地震后陸側の土砂が流失したため、以前の位置よりも奥に寄せざるを得なくなり、台所の末叢を考慮して石垣も約1.5～2.5mの高さとなり、戦前よりもはるかに強化された護岸壁となつた。この道路延長約75m、幅員2mで砂利を敷き、内側に鉄線の垣を巡らし、且つ二箇所には暗渠と浜側に降りる階段がとりつけられた。

この道路復旧のために、土地問題処理上わざわざ御出張を仰いだ京大會計課管理係長石本福一氏及び工事費の全額を負擔された春所山植物園長榎本林作氏の献身的御盡力はひとかたはらねものがある。ここに両氏に対し厚く感謝の意を表する次第である。

暑中御見舞い申し上げます。



完成した水族館下の海岸道

水族館に至る舗装道路

(共に山路委員の撮影による)

7月23日折柄白浜小学校に交換学習のため来白中の京都市清水校6年生及び父兄合計271名に白浜小学校側の父兄生徒合せて約350名と大団体が折々悪しく朝から降るつづく大雨の中をぬれしよびれて水族館を見学した。この日の雨量は409ミリを算し、気象観測を開始して以来未曾有の記録であつた上に、水族館や博物館にも多少の被害があつた。

7月に入つてからは、果外に6月よりも入場者が減り、比較的閑散であつたが、実験所の方は帰海実習の最盛期に入つて、連日多忙をきわめている。

業 務 概 況

◎ 7月の入場者数

区 分	水族館 発券数		明光バス 発券数		合 計	
	本月分計	累計	本月分計	累計	本月分計	累計
大 人	3513	27246	5676	51513	9189	78759
小 人	313	1812	155	796	468	2608
団 体	5766	30448			5766	30448
合 計	9592	59506	5831	52309	15423	111815
無 入 場 者					408	1257

7月の事業収入

(累計)

観覧券売上金 273,932 2,080,242

魚類掛下 2,470 3,520

諸収入 350 600

6月までの繰越 771,179

計 1,047,931

7月の支出

水族館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	49,796	247,499	
合計	—	100	
備品費	—	5,240	
消耗費	9,078	32,036	
事業費	44,348	137,187	
維持費	59,470	77,555	
其他諸経費	3,490	72,262	
積立金	47,686	354,830	全収入の1/6 其他
合計	213,868	926,709	

実験所経費

費目	金額	累計	備考
研究費	—	10,000	
奨学金	5,000	5,000	
備品費	6,700	6,700	
消耗費	—	14,500	
手行費	329,576	329,576	紀要4巻2-3号及
役務費	—	77,610	總目録
合計	341,276	443,386	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	4,200	20,160	
消耗費	6,520	9,393	
備品費	500	6,600	
合計	11,220	36,153	

臨時部

項目	金額	累計	備考
庭園内通路舗装並集水工事	—	39,680	
水族館通路舗装工事	—	239,300	
正門通り通路改修工事	117,320	117,320	
合計	117,320	396,300	

支出合計

(黒計)

水族館経費	213,868	926,709
実験所経費	341,276	443,386
博物館経費	11,220	36,153
臨時部	117,320	396,300
計	683,684	1,802,548
7月末現在高	364,247	
支出黒計	1,802,548	

◎前年度との比較

	1954	1955	増減
入場者数	13,803	15,423	+ 1,620
売上金	230,220	273,932	+ 43,712
支出金	178,826	683,684	+ 504,868

水族館記事

- ◎ 10日 水槽中に飼育中のアケエイより子供が5匹産れたが、4匹は死亡、1匹の4元気に成長を続けている。
- ◎ 23日 アカウミガメの1匹が死亡、又1953年生れのアカウミガメの赤ん坊の最後の1匹が16日に死亡した。共に同居中の大きなカメにいじられて殺されたものらしい。
- 今年は産卵のためあがってくるアカウミガメが少なくて、その補充に苦慮している位である。現在飼育中のカメはアカウミガメ 6匹、アオウミガメ 2匹、タイマイ 2匹。
- ◎ 23日の豪雨の影響のため、海水濁り、イセエビ 2、コブセミエビ 1、セミエビ 1、ウチワエビ 12、ソソリエビ 12、の多数が死亡した。
- ◎ 7月中に入槽した主なものを挙げると次の通りである。

アサヒガニ	3匹 (3日, 19日)
ウミシャボテン	24匹 (10日)
アミメノコギリガザミ	1匹 (9日)
タイワンガザミ 及び "ガザミ"	13匹 (16日)
クロイシモチ	6匹 (6日)
トラウツボ	6匹 (18日)
ハモ	2匹 (13日, 20日)
コバンザメ	1匹 (26日)
マダコ	1匹 (22日)
イトヒキアジ	2匹 (27日)

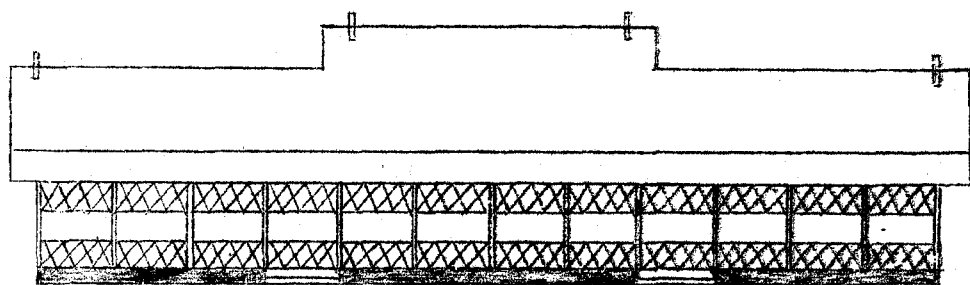


マツチのレッテル

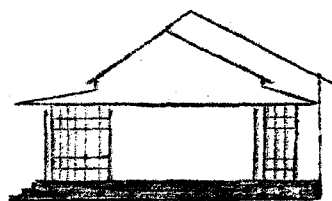
- ◎ 魚類はかくの如く相当に入ったが、反面死亡するものも多く、例年の如き美しい熱帯魚がまだ入らないので、何となく物足りない。
- ◎ 26日 玉野市立海洋博物館より差向けられた舟によって玉野産のマダコ 12匹、キュウセン 19匹と蛸壺5個の寄贈をうけたので、お礼にイセエビ、マツカサウオの若干を贈った。

博 物 館 記 事

- ◎ 博物館を平屋化する計画を促進するために、かねてより京大技術課に依頼しておいた大体の設計図ができたので、時岡孝真が之を携行してもつて帰り、実験所々員に披露された。建坪160坪で東西に長く、南面して作られる予定の下に、南側に幅1両半の歩廊を設けるように設計されたが、これに屋根を設けるか或は日蔭棚とするかは、今後建築が具体化するまでには決定されるであらう。大体の外観見取圖は次の通り。



南面図



東面図

- ◎ 23日の豪雨により博物館屋根の雨漏りがひどくなった。

資 料

- ◎ 7月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(22)	6	7	9
気 温 (C)	$\frac{26.3-28.0}{27.3}$	$\frac{26.2-29.8}{27.6}$	$\frac{25.8-28.0}{27.3}$
水 温 (C)	$\frac{25.8-27.0}{26.4}$	$\frac{26.2-27.8}{26.7}$	$\frac{26.1-27.8}{27.0}$
比 重	$\frac{20.3-21.0}{20.7}$	$\frac{20.1-22.6}{21.3}$	$\frac{18.2-22.6}{19.1}$

但し { 気温は南水槽室
水温 } は No. 25 水槽 で 10 時に測定
比重

来 訪 録

7月2～3日 魚類の耳石研究のため 山形大学生物学科 4年生 清治和則氏来館。約10種類の魚類を資料として提供。

7月13～14日、20～27日 保育社の八上、大野両氏 海岸動物撮影のため来館。内海所員指導の下に各種の動物を多数撮影。

7月26～30日 玉野市海洋博物館長 宮川澄夫氏来館。魚類の購入及び交換のため。

尚 水族館設置計画のため、尾道市当局及び韓国中央水産試験場(金田泰氏)より照会あり、必要資料を提供した。

昭和30年8月5日 発行 (No. 35)

編集兼
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会

和歌山縣・白浜町

瀬戸臨海実験所 内

(電話 白浜温泉515)